

# Duet 十

Vol.43

2022.3

「デュエット」には、性別に関わりなく、デュエット（二重奏）により互いに協力して未来へ向かうという意味が込められています。

## おうち時間のおもてなし料理 「クリスマスリースのフラワーキッシュ」

コロナ禍だけど・・・

女性も男性も家事に積極的に参加しパートナーと一緒に料理する楽しさとコツを学びました!!

動画を見てくださった方から、つくったよレポート「つくレポ」が届きましたのでご紹介します

～リアン～さん



美味しく家族のテンションも上がりました。  
また作ります。

みいさん



ポクもお花  
を作ったよ



3歳の孫と一緒にチャレンジしました。  
自分で作ったという満足感いっぱいの顔でした。

miya☆daiさん



お花をしぼりだすのが思ったよりうまくできてうれしかったです！

完璧に再現もいいですしオリジナルもとっても良かったです。  
ちょっと難しいフラワーキッシュがこんなにもご家庭で楽しんで頂けて嬉しいです。



☆講師：笠倉 さつきさん (CO-Chat)

「多様な学びプロジェクト」をサポート！

## コドモ農業大学



上尾市の「ほたるファーム」では小中学生の学びの場として「多様な学びプロジェクト」をサポートしています。無農薬無肥料で育てた野菜を販売し、そのお金で次に植える苗や消耗品などを購入するなど、子どもも野菜も広い空の下でのびのびと育つ「ほたるファーム」取材し、主催者や、参加者の皆さんにインタビューさせていただきました！！

### 寺西 正憲さん「ほたるファーム」オーナー

3年前から「コドモ農業大学」を始めました。

初めは指示を待つことが多かった子ども達が、作業にも慣れ、チームワークもできてきて自主的に動けるようになってきました。農作業は計画し、作業をし、面倒な事もやっていかなければならない。社会に出てからやっていく事と実は同じことが多く、また算数も必要。植えた野菜が育ち、食べた時、また売れたときの喜びも大きく、学びは多い。ゆくゆくは自分たちで計画するところまでできるようになっていけたらいいと思います。

### 萩原 裕子さん「コドモ農業大学」代表

ほたるファームは、家で過ごすことが多い不登校の子たちが「友達に会いたい」という気持ちで来られる居場所になっています。農業は暑くても寒くても面倒でも避けずにやるしかありません！葛藤しながらも自然と向き合ううちに野菜に愛着や責任が感じられるようになっていきます。自然相手だと思い通りにいかないこともたくさんありますが気持ちに折り合いをつけていく経験をしています。子どもとい

る時間が多い不登校の子の親にとっても気分転換や気持ちを話せる場にもなっています。

コドモ農業大学ホームページ

[https://peraichi.com/landing\\_pages/view/kodomonogyo/](https://peraichi.com/landing_pages/view/kodomonogyo/)



### 子どもたちの声

☆ほたるファームの好きなところは？

- ・かきで農業ができるところ
- ・陽が当たって気持ちが良いところ
- ・無農薬で野菜を育てているところ

☆農業をして学んだ事は？

- ・机に向かって勉強するのではなく、直接触れ合って学習することの楽しさを学んだ
- ・以前は野菜を何も考えずに食べていたけれど、野菜を作るのは本当に大変だということを知った

☆これから来たいと思ってる子に伝えたいことは？

- ・畑仕事は大変だけど楽しいことや面白いことがいっぱいあるからぜひ来てね！
- ・ほたるファームは空気もおいしいし気持ちいいし最高だから来てみてね



2022年4月から男性育休  
への取り組みが更に本格化へ!

男性育休取得率100%の組織で働く男性2名に

## 育休について 聞いてみました!



二河 等さん(左)、橋本吉央さん

2020年度の男性の育児休業の取得率は12.65%。取得期間は、約28%が5日未満でした。そのような中、数年前から男性育休取得率100%を実現しているのが、認定NPO法人フローレンスです。今回は、その認定NPO法人フローレンスで働く男性陣2名（橋本吉央さん、二河等さん。以下、橋本、二河）に、育休取得前や取得中のエピソードを聞いてみました。

**お二人が育休を取得するとき、周りからの反応はどうでしたか？**

**橋本**：組織自体が「え、あたりまえに取るでしょ？」という雰囲気だったので、自然に取る流れになりました。

**二河**：そもそも取ることに抵抗がなかったし、取るものだと思ってました。

ただ、妻の両親はちょっとびっくりしてました。仕事とか収入とか大丈夫なの？と。

ちなみに、第一子のときは前職だったのですが、そのときは組織に「取りたい」と伝えたものの、「昇進を諦めるのか」「入れ替えスタッフが確保できない」等と言われ、取得することができませんでした。転職して、この組織で取ることができて本当に良かったです。

**橋本**：僕も一人目のときは前の会社にて、取れませんでした。

**実際に育休を取ってみてどうでしたか？**

**二河**：下の子を妻が見て、私が上の子を見る、というような役割分担でした。

とにかく毎日公園を回りまくっていましたね。他には、夜泣きの対応もしてました。

**橋本**：日中（一緒に）いなくて限定的に関わるのと、1日一緒にいて、おむつ替えてご飯あげてあやして、をやるのはぜんぜん違う。そうやって全部やっていくことで、普通にやれるようになっていくというか。それがわからないと、結局母親の負担になってしまう。

**二河**：夫婦でそういう経験をできることが、その先にもつながっているなって思います。

**育休を取った後にもつながってるってことですね。そこを、詳しく聞きたいです。**

**二河**：育休中に夫婦二人で（子）を見るのが当然だったので、保育園に行きだして、夫婦とも仕事を開始した後も、お互いに予定が入れやすかったです。育休の時に「お互い様」ができていたので、妻も好きなアーティストのライブに行ったり、私も飲み会に行ったり。

**橋本**：本来はそれが普通だとは思いますが、それが中々普通になってないってことなんですよ。僕も、育休からの延長線上だなって思います。

**二河**：そうそう。そして、取得した後の暮らしも大事です。育休をせっかく取得しても、残業三昧ではいまいちなので。

お二人に話を聞くまで、男性が育休を取ることは、「取得した期間、夫婦が楽になる」というイメージが強かったのですが、それよりも、育休を取得した後ずっと続いていく家族での生活がより良くなることにつながっていく、という話が特に印象的でした。これからさらに取得者が増えていくであろう男性育休。法改正も後押しして、いろんな家族に広がっていくと良いなと思います！

# 認知症サポーター養成講座 in 「ふるさと交友会」 取材しました!!

## ～介護に関する様々な思い～

令和3年12月17日、上尾市の市民団体「ふるさと交友会」の会員活動の中で、認知症サポーター養成講座が開催されました。当日は、男性13名・女性13名(70代～80代)の会員が参加。

### 認知症サポーターって??

認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かい目で見守る「**応援者**」です。

#### ★認知症の予防には

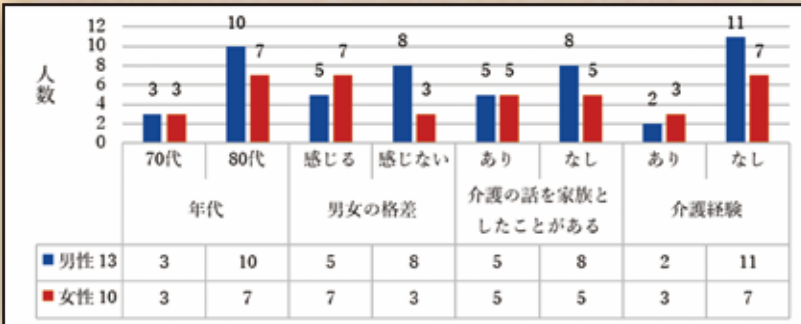
・快刺激・コミュニケーション・役割を持つ・ほめるほめられる

#### ★認知症の人への接し方は、さりげなく自然に対応するのが一番

・驚かせない・急がせない・自尊心を傷つけない

がポイントとのことでした。

### ◆身近な家族や地域の方を思い、熱心に講座を聞いていた皆さんに「介護」についてのアンケートを行ったところ・・・



介護に対する思いも、男性と女性には多少の違いがみられるようです。

コロナ禍で延期となっていた講座でしたが、徐々に顔を合わせ、話も尽きず笑顔も見える中、講座の内容やアンケートへの回答で、これからも健康づくりや地域活動の大切さ、男女の格差や介護について考える、良いきっかけになったとの声が聞かれました。



## 相談を行っています

男女共同参画推進センター(市役所第3別館1階)では、自分の生き方や家族との関係、離婚問題、DV(暴力を振られる、暴言を吐かれる)など、さまざまな悩みを抱えている女性のために相談室を開設しています。いずれも女性のカウンセラー・弁護士・相談員が対応します。

**☎048-778-5110**

受付時間 月～金曜日(祝日・年末年始を除く)  
午前8時30分～午後5時

秘密厳守

相談無料

※上尾市男女共同参画推進センターでは配偶者暴力相談支援センター業務を行っています。

### 女性のための相談 女性カウンセラーによる相談

日時 毎週水曜日(祝日・年末年始を除く)  
午前10時～正午・午後1時～4時

相談時間 50分間 ※面接・電話相談可

対象 市内在住の女性

【予約制: 相談月の前月1日から受付】

### 女性のための法律相談 女性弁護士による相談

日時 毎月第3火曜日 午後1時～4時(祝日を除く)

相談時間 30分間 ※面接相談のみ

対象 市内在住の女性

【予約制: 相談月の前月1日から受付】

### DV電話相談(性別不問) 女性相談員による相談

日時 毎週月～金曜日(祝日・年末年始を除く)

午前10時～正午・午後1時～4時

【予約不要】

## 編集後記

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年の編集会議はほとんどオンラインでの会議でした。その中で43号はお料理・子どもの多様な学びの場・男性育休・介護などを取り上げました。取材を通して、「女性も男性もすべての人が輝ける上尾市」のためにたくさんの方が活動をしていることを知ることができました。これからも男女共同参画について考えていただけるきっかけになるような記事を紹介していけるように視野を広げてゆきたいと思っております。

(編集協力員: 上田知樹・大関香織・樽井花子・野村美佐子)

■本紙へのご意見・ご感想をお待ちしています  
(住所、氏名、電話番号、性別、年代をご記入ください)。

上尾市男女共同参画  
推進センター F B

